

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500671		
法人名	医療法人社団 森生会		
事業所名	グループホーム「もりの家」 鳥ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330-85		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	平成24年10月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームに看護師が1名配属されており、利用者様の健康管理も配慮しながらケアにあたっています。すぐ隣に森の里病院があり、健康管理や緊急時には24時間、医療との連携も取りやすく、安心して生活を送ることが出来ます。また、食べる事の楽しみを考え、栄養士が配置されており栄養・見た目・雰囲気も大切に利用者様の希望を取り入れながら、栄養面からのケアにも力をいれています。地域のお店の協力を得ての外食や、屋外での食事、一緒におやつを手作りしたり、食べて健康でいられることを重視しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171500671-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171500671-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年9月20日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人森生会は、高齢者なら誰でもが雇いうる認知症を認知障害と捉えその予防予知に尽力し、地域医療、保険、福祉のトータルケアを推進している法人である。認知症治療病棟を有する森の里病院を中核に、新設の系列グループホームと連携した運営を行っている。平屋造り2ユニットの当事業所は、森町の豊かな自然に恵まれた環境の中にある。利用者個々の個性や生活歴を職員が熟知し、ユニット間の垣根を越えて相互に協力したケアを取り入れ、利用者の残存能力を大切に押し付けのないケアに努めている。病院敷地内に立地しているため住民の気軽な訪問は難しい面もあるが、地域ボランティアや小学生とのふれあい、中学や高校生の職場体験、実習の受け入れ、災害時の協力などを通して地域住民との温かい交流関係を築いている。隣接の母体病院との24時間医療連携や、施設長が看護師の資格を持ち、更に常勤看護職員の配置で医療面での安心を支えている。また栄養士、調理職員もおり、外食・行食も工夫して利用者の希望を盛り込みながら食の楽しみを叶えている。施設長を中心に職員同士の良好なチームワークが保たれており、今後も地域のグループホームとして期待される事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「家庭的な環境と住民生活との交流のもと、絶えず笑顔のある安心した暮らしが出来るよう支援します」を念頭に置き、日々のケアに努め、朝礼やミーティングなどを行い、職員間で共有されている。	管理者は職員採用時から、介護職の姿勢や人としてのあり方も含めて事業所の基本線である理念の大切さを伝え、理解を促している。会議や日常業務の中で、職員間で共有しケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないながらも、法人の夏祭りや、町内会の盆踊り、事業所行事に地域ボランティアの協力を得るなど、気軽な交流が出来るよう努めている。	法人や事業所で実施する夏祭りやクリスマスなどに地域のボランティアの協力が多くあり、行事等で相互の交流を促進している。小学生とのふれあいや中学、高校生の職業体験、実習の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	森町の介護事業所等へご案内し、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を写真や説明で利用者の様子を知っていただき、そこでの意見等を議事録に残し活用している。運営推進委員の意見を参照し、改善・努力している。	会議は、家族、行政の職員や地域代表、地域密着型サービスの知見者等のメンバーで定期的開催している。議事録の全家族配布や通信で会議の案内をすることで家族の参加も微増している。多様な意見を頂くことを大切に質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ、円滑な連携をとらせていただいております。ともにサービスの質の向上に向け努力している。	町の福祉課、保護課、包括支援センターなど行政担当者とは、折に触れ事業所の現状等の情報発信に努めており、サービスの質向上に向けて連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに対して、禁止の対象となる具体的な行為に関して正しく理解してケアにあたるように周知している。玄関の施錠は防犯上夜間のみ行なっている。	身体拘束に関する外部の研修会に職員数名が参加し、事後報告書の提出と回覧、伝達研修で理解を深めている。事業所では、身体拘束をしないケアを念頭に置き、安全面で止むを得ず実施する場合は、家族の同意を得て利用者の負担にならないよう細心の注意を払って対処している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識やモラルを持ち、マニュアルや日々のミーティング等を通じ理解の共有を図り、ケアに従事している。言葉遣いについても、スタッフ間でお互いに気をつけあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員は地域権利擁護や成年後見制度についての勉強会等に参加しており、現在必要とされている方はいらっしゃらないが、必要な際はそれらを活用できる状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者・家族に対し、契約内容を正確に理解していただけるよう、疑問点や不明な点についても、本人の納得のいく説明、家族の理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時やお便り等で相談や日常生活の様子を情報提供という形で報告し、運営推進会議での委員のご意見を基に改善と努力をしている。	家族とは、来訪時や電話などで利用者の状況を伝え、対話に努めている。4月に初の家族アンケートで満足度を図り、結果を現状ケアの課題と捉えて、職員研修に組み入れるなど、具体的な改善につなげるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不満や苦情等、を常に言い合える環境作り、より良い信頼関係を心がけ、都度ミにカンファレンス等を開催している。定期的なカンファレンスの他、常に職員の意見や提案には耳を傾けている。	日常での関わりやカンファレンスで意見交換を図り、業務に活かすようにしている。管理者は、職員が意欲を持って働きやすい環境作りに向けて、職員との面談等を充実させ意見を全体にフィードバックしていく方針を示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制や勤務が変更になっても対応できる環境作りや、職員の相談を常に受け入れる環境作り・職員交流事業も取り入れ、ストレスの軽減に向け取り組んでいる。職員がやりがいを持って働けるような環境作りを推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を通じ、職員のスキルアップを図っている。研修後は法人内でも研修結果を報告してもらい、職員間で情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会のブロックでの交流会や、他のグループホームへの視察や実習を行っており、サービスの質を向上させていくような取り組みを実施している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや家族からの生活習慣情報、本人からは交流を密に持ちながら聞き取りを行い、ご本人の気持ちを察せられるよう心がけながら、関わりを持つことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際はもちろん、来所時は声かけし電話や書類でもご家族様のニーズを引き出せるよう心がけている。ご家族等からも情報をいただきながら、いつでも話が出来る環境作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の立場に立ち、その時々に必要な支援を見極める努力をし、その実施を推進している。都度、説明や相談に応じていくことを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある利用者様の笑顔を大切にしながら、喜怒哀楽を共にし、暮らしを支えるよう取り組んでいる。出来る部分は利用者にも手伝っていただき、協力し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共に考え、より良いケアに向け取り組んでいる。本人とご家族とのより良い関係が継続していただけるよう取り組んでいる。来所時やお便り等で情報の共有を行ないながら共に支えていけるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されてからも、大切な関係が損なわれないような支援を考え、その実施に向け取り組んでいる。馴染みの物等を持ってきていただき、より自宅での生活に近い環境でのサービスを心がけている。	手軽な訪問美容室も導入されているが、職員の同行で馴染みの美容室に通う人や、地元の商店に洋服を買いに行く利用者もいる。離れて暮らす家族へ想いを手紙にするサポートなど、今まで築いてきた関係や場との繋がりが途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の目線で物事を考えながら、お互いが支えられるような関係を考慮し、状況に応じて職員が間に入り、その関係を大切にさせていただけるような取り組みを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様や、ご家族様とも、退所されても気軽に遊びに来ていただけるよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様の意見や希望に沿ってケア出来るよう取り組んでいるが、本人からの希望の把握は困難な事も多く、家族の意向を聞きながら支援している。	日常の会話から想いの聞き取りが困難な場合もあり、生活歴などを理解し、利用者の立場に立って察する事に努めている。家族からの情報や意向、新人職員の新鮮な視点や気付きも重視して職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様や各種機関、ご友人等から機会があるたびに情報収集に心がけ、情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状や情報を職員全員で総合的に把握出来るよう、日々、工夫し取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、必要な関係者と情報を共有し合い、ご家族とは面会時に情報交換し、モニタリングやカンファレンス等で常に現状にあったプランを作成している。	入居時の利用者の意向の確認や受け止め、アセスメントを重要視している。日々の記録の共有や毎月のモニタリングで常に現状を確認している。利用者の状態により3ヶ月、6ヶ月毎にアセスメント、見直しを行ない、関係者の意向を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で検討した介護記録を導入し、日々の記録情報を共有しながら実践や介護記録に活かしている。より良い記録にする為、見直し・改善に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のご要望に応えられるよう、職員間でよく話し合い、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族様のご要望に応えられるよう、職員間でよく話し合い取り組んでいる。各種機関とも連携し、共存共栄を目指し支援できるよう推進している。ボランティアの受け入れも行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症治療病棟である隣接の森の里病院と協働し、必要な医療アプローチを実施している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医や訪問歯科の受診を支援している。隣接の母体病院から週1回内科の往診があり、加えて個別に応じた作業療法や生活リハビリの指導も得られている。24時間の医療連携や常勤看護職員の配置など手厚い医療体制が整備されている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が一名配属されており、隣接する森の里病院と協働し、必要な医療アプローチを実施している。変化があった場合は、夜間問わず連絡を取り、相談・指示を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する森の里病院と協働し、必要な医療アプローチを実施している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りに係る指針を通じて、利用者様、ご家族様の意向を重んじたケアに取り組む他、職員全員でその方針の実施に向け取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方については、契約時に意向を確認し同意書を交わしている。利用者の状態変化を前にした家族の揺れ動く心情を汲み取り、介護と医療の見極めを図りながら意向の確認を重ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防や隣接する森の里病院でも救命講習を行なっている。応急処置や初期対応の知識を有していると思われるが、行動が伴う不安はある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会と合同で、年に二回の防火訓練等を行なっており、利用者が安全に避難できるような措置をしている。	今年度は7月に消防署の立会いのもと、隣接の事業所と合同で、夜間を想定した火災予防訓練を実施している。母体病院を中核に自衛防火災害組織体制を整え、地域の協力体制も構築されている。災害に備えた備蓄品の確保、電力不足の対策も進めている。	火事を出さない対策や地域協力体制の強化と共に、火災以外の災害についても地域性を考慮のうえ、必要な対応策の検討や訓練等に取り組むことを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で話し合っているが十分とはいえない為、対応や個人情報について利用者様の尊厳を重んじ、実施を心がけている。	利用者の誇りやプライバシーへの配慮に努めており、気になる対応や言葉かけが見受けられた場合は、職員同士で注意している。記録の保管や情報の管理を徹底している。	事業所では、利用者との関係性の深まりは時に馴れ合いに流されることもあり、改めて接遇に関する研修を予定している。望ましいあり方が職員全員の共有と実践につながることを期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な姿勢で接し、利用者様の小さい願いでも実現できるよう努力している。また、表現しづらい方へもその方の視点で思いや希望を理解するよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑顔のある安心した暮らしを理念とし、利用者様のペースで生活されるようなケアを実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いや希望を重んじ、それを大切にしたケアに向け取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、利用者様にあつた力を活かし、好みなどを把握しながら取り組んでいる。	利用者の好みや希望も時に尋ねながら、カロリーを出来るだけ制限せず運動も含めトータルバランスを考えて栄養士が献立を作成している。流しそうめんやお弁当、外食も加えて食を楽しんでいる。職員は食事介助に専念し、共に食事はしていない状況にある。	職員は、利用者の食事が進むよう見守り介助をしているが、利用者にとっての食事を楽しめる環境や共に食事を取ることの意味を再度検討し、同じ食事を一緒に取る方を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専従栄養士の元、一人一人の状態を観察し、それぞれに適したバランスを心がけ、状態や力、週間に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態や利用者様の状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンを把握し、失敗を減らし、習慣を活かした排泄となるよう支援している。	オムツなど衛生用品の使用は、時間帯や状態により個別に検討している。失禁して本人が嫌な思いをしないよう個々に応じた事前誘導で失敗が少なくなるなど、その人なりの排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分補給等の飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等を通じその予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴を楽しんでいただけるよう、本人の意向を大切に支援に向け努力している。しかし、安全面を考え、夕方・夜間は行っていない。	週3回入浴日が設けられ、職員2名の介助で入浴を支援している。大浴場なので、楽しく温泉気分を味わえるよう声掛けしている。個浴の希望や夏の清潔保持のためのシャワー浴など個別の希望に添えるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のパターンや習慣を活かし、安眠していただけるような支援に向け努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導や書類等により、服薬についての知識を有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には、一人ひとりに役割や張り合いを持って生活していただけるよう、その実施に向け取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や場面作り等を大切に、戸外に自由に外出できるような支援を実施している。天気の良い日には外に散歩に出たり、外食や花見など全員を対象にした外出支援も行なっている。また、個別の要望に応じられるよう実施に向け取り組んでいる。	事業所では、建物の裏手にある花畑に車椅子でも気軽に行けるよう遊歩道の整備を始めている。町内の桜の名所や大沼公園まで遠出の遠足に出掛けたり、外食するなど、車椅子対応の車両を使用して全員参加の外出を支援している。回廊式の廊下の歩行を促し、冬季の運動不足や気分転換にも気配りしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状況等に応じ、金銭管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人等と、手紙や電話を通じ交流できるような支援を実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や生き物のイラストを飾って季節感を感じていただいたり、落ち着いた気持ちになるような音楽をかけたり、温度や湿度にも心配りをしながら、生活感や季節感を取り入れ、居心地がよくなるよう工夫をしている。	玄関を中心に、左右に鳥、花の各ユニットが配置され、職員や利用者が自由に行き来できる構造となっている。フロアのゆったりとした空間には、畳スペースや食卓、ソファが設置されている。写真や利用者や職員と一緒に作ったカレンダーを掲示し、居心地の良い雰囲気作りに取り組んでいる。床暖房で安全に配慮され、室温や湿度、換気も適切に調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々、利用者様や状況等にあった共有空間になるよう工夫している。ホールと廊下にソファやイスを置いて過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごしていただけるような工夫をしている。家族の写真・家具・趣味の本などを置き、ご家族様にも協力していただきながら環境づくりをしている。	居室には、ベット、テレビ、冷蔵庫が完備されている。大容量のクローゼットが備えられ、生活雑貨や衣料品などが収納でき、居室内はすっきりと整理されている。ポータブルトイレの使用後はできる限り速やかに処理し、快適な住空間に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の混乱を防ぐような工夫を職員間で話し合い、安全かつ自立した生活が送れるよう支援し、個々の残存機能を活用していただけるように工夫している。		